●三重地区交流センター便り 27号　　令和7年6月15日発行

みてたんせ

〒019－0508 横手市十文字町十五野新田字増田道東19番地
☎ 0182－23－6777・FAX 0182－42－2165

入梅の6月（水無月）

三重地区交流センター
センター長　髙橋 信雄

６月は紫陽花、雨傘などの風物詩を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。
また、作物の種を蒔く時期である「芒種」は6月6日から20日頃までを指します。
そして6月21日が夏至で、1年で日の出の時刻が最も早く、入りの時刻が最も遅い日ですが、日本では日の出が最も早い日は夏至の１週間前ごろであり、日の入りが最も遅い日は夏至の1週間後ごろであるとされています。
さて、日本は多くの原材料を輸入に頼っています。例えば小麦は約８０％以上を輸入していますし、原油は約９９.７％が輸入です。輸入している原材料の価格が上昇すると企業はコスト増を価格に転嫁せざるを得なくなり、結果として物価が上昇します。
また、国内の賃金上昇も物価高騰に影響する要因の１つです。ロシアとウクライナは小麦、大麦、トウモロコシなどの主要な穀物輸出国です。戦争により両国の穀物生産と輸出が大幅に減少し、世界的に穀物の価格が高騰しました。この影響は、パンや麺類などの穀物を原料とする食品の価格上昇につながっています。さらに、穀物は家畜の飼料としても使用されるため、肉や乳製品の価格にも影響を与えているようです。
何はともあれ、季節は暑くなりますが気持ちだけは涼しくなっていたいものです。

Thanks
健康麻雀さくらんぼサークルのみなさん

当センターを利用されているサークルさんが、花壇等の除草と花植えのボランティア活動をしてくださいました。（4/30）

きれいに咲いたオキザリス

三重地区交流センター運営協議会　文化教養部事業

★「歴史めぐり～山形県金山町の見学～」開催　令和7年5月18日（日）

★今年度最初のセンター事業で隣県山形の金山町に行ってきました。旧羽州街道沿いに広がる白壁の蔵の街並みや、景観のシンボルになっている錦鯉の泳ぐ農業用水路の大堰、金山杉をふんだんに使用した屋根付きの歩道橋「きごころ橋」など様々な歴史的な建築物があり、新緑あふれる季節に街並み案内人のガイドで金山の歴史に触れてきました。

大 堰

交流サロンぽすと

十日町通り

マルコの蔵

きごころ橋

蔵史館

みんなで記念写真

さくらんぼ産地元気アップ事業を実施します

★マスコットキャラクター
チェリリン

6月に入り、地元特産品さくらんぼの収穫時期となりましたね。

三重地区交流センター運営協議会では、さくらんぼ産地の応援事業を実施することになりました。出来ることは限られていますが、オリジナルマスコットキャラクターを活用し、のぼり旗作成・掲示とフォトコンテスト等を予定しています。

長い間町の象徴として白鳥と共に掲げられてきた「さくらんぼ」。コンテストへの応募など、地域の皆さんの御協力をお願いします。

九州南部は例年より2週間も早く5月中旬に梅雨入りしたようですが、秋田の梅雨入りはいつ頃になるのでしょうか。

湿度が高いこの時期は、熱中症や食中毒の予防など注意が必要ですね。部屋の換気や除湿、こまめな水分補給と食事の衛生管理等々心がけて元気に過ごしたいものですね。

（事務担当）